

# 「東日本大震災」発生から一年 登米市の復興への歩み

昨年3月に発生した東日本大震災から1年がたとうとしています。震災は、市内において震度6強を観測、水・電気・電話などライフラインの損壊や、長期にわたる燃料不足、思い出が刻まれた家屋の倒壊など、わたしたちのかけがえのない暮らしを奪い、生活を一変させました。

また、震災により発生した福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能汚染も日常生活や農林業などへ甚大な影響を及ぼしています。今月号の特集では、未曾有の震災発生から1年を迎え復興計画の策定など、登米市の復興への取り組みについて紹介します。



1 兵庫県阪神支援チームと沿岸被災地への災害応援協定を締結  
2 各イベントで行われた被災地支援の募金  
3 にぎわいを見せる登米・南三陸観光物産復興祭  
4 市独自で町域ごとに稲と土壌の放射性物質を調査  
5 三陸縦貫自動車道登米志津川道路が着工  
6 震災後初となる県内への進出企業「DIOジャパン」が登米市に立地  
7 南三陸町の被災者のため仮設住宅を本市に建設  
8 震災からの復興に向けた意見を出し合う震災復興・復興市民会議

## 震災からの復興に向け 震災復興計画を策定

市では、東日本大震災からの復興のため「市民アンケート」や「震災復旧・復興市民会議」などからの意見を基に検討を重ね、議会との協議を経て「登米市震災復興計画」を昨年12月に策定しました。

震災復興計画では、計画の期間を平成28年3月までとし、23年度から25年度までを「復旧期」、26年度から27年度までを「再生期」と位置付け「市民生活の再建と産業の振興」「公共施設の計画的復旧」「安全・安心なまちづくり」の3つの基本方針の下、6つの目標【下段】を設定しています。

また、震災復興計画を広く周知するため市ホームページに掲載しているほか、1月には策定された復興計画の内容を分かりやすく掲載した「登米市震災復興計画概要版」を作製し全戸に配布しています。



配布された登米市震災復興計画【概要版】

市では復旧・復興に向けて「登米市震災復興計画」の着実な実施により、今後も産業や保健、医療、福祉などの各分野において関係機関との協力の下、一日も早い市民生活の再建を目指し、市民一丸となった取り組みを進めていきます。

## 登米市の震災復興計画の6つの目標

- 1 市民生活の再建**
  - 1 住宅の再建
  - 2 生活の支援
  - 3 生活環境の確保
  - 4 保健、医療、福祉の充実
  - 5 原子力発電所事故への対応
- 2 産業・経済の復興**
  - 1 産業の復興
  - 2 雇用機会の創出
- 3 公共土木施設の復旧**
  - 1 公共土木施設の復旧
  - 2 ライフラインの復旧
- 4 教育の復興**
  - 1 学校教育の復興
  - 2 社会教育、社会体育の復興
  - 3 文化施設の復旧
- 5 新たな安全・安心なまちづくり**
  - 1 防災体制の強化
  - 2 安全・安心なまちづくり
  - 3 その他の施設の復旧
- 6 近隣市町等との連携**
  - 1 近隣市町等との連携
  - 2 近隣市町の被災者支援

## 市内公共施設・市道などの復旧状況

市道については、市内すべての災害査定（国の災害事実の確認行為）が終了しました。現在は、災害査定が終了した箇所から順次復旧工事を行っており、残りの被災箇所についても順次復旧工事を行います。

なお、1月末現在の災害復旧工事の発注率は約61%で、工事完了は平成24年度中を予定していますが上水道や下水道、N.T.Tのケーブルなど地下埋設物の復旧工事が終了した後、舗装復旧となる箇所もあるため、工事に時間を要する場合があります。

市内の公民館や体育館などの公共施設についても、全体の約9割にあたる74施設で天井の落下や地盤沈下などの被害が発生しましたが、応急工事などにより現在68施設について使用可能となっています。

中でも、被害規模の大きい35施設については、国の災害復旧事業として約8割の施設が査定を終え、本復



本格復旧が進む市道（上）と復旧工事中の石越体育センター（下）

## 大震災発生から一年を過ぎて～地域の絆を力に～

昨年3月11日の東日本大震災発生から間もなく一年が経過しようとしています。大地震、大津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故が重なった大災害は本市にも甚大な被害をもたらし、いまだ日常生活や産業などに影響を与えています。市では、震災発生直後から各方面より数多くのご支援をいただきながら、被災された皆様への生活支援に最優先で取り組むとともに、ライフラインや公共施設の復旧などを進め、復興への土台づくりに努めてまいりました。

また、隣接する自治体として、津波で甚大な被害を受けた沿岸地域の復興支援にも主体的に取り組んでいかなければならないものと考えております。



登米市長 布施 孝尚

こうした中、昨年12月には一日も早い生活再建と安全・安心の確保、産業の振興など、目指すべき復興の姿を示した「登米市震災復興計画」を策定し、1月には概要版を発行して市民の皆様にお知らせをさせていただきました。今回の震災が本市へ与えた影響は計り知れず、復興に向けての道のりは長く決して平坦なものではありませんが、市民の皆さんとの強い絆のもと「夢・大地 みんなが愛する水の里」の実現を目指し、全力を挙げて取り組んでまいりますので、これからもご支援とご協力をお願いいたします。平成24年3月1日 登米市長 布施 孝尚

旧工事が順次進められています。復旧工事の多くは平成24年度中の完了を予定しており、被害の大きい施設についても、平成25年度末までの完成を見込んでいます。

本復旧工事に関し、完了まで市民の皆さんにはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

## 放射能への対策と情報の公開

市では、放射性物質による食品汚染に対する不安を払拭するため、各給食センターや認可保育所ごとに、給食に使う食材から数品目を選定して放射性物質の測定検査を行い、安全を確認しているとともに、結果を市ホームページで公表しています。

これまでの検査の結果、いずれの食材からも放射性物質は不検出となっています。

また、原発事故後に収集された放射性セシウムを含む稲わらについては、一次保管庫を市内に43棟設置して保管することとしています。現在は21棟が完成し搬入が進んでいます。一次保管庫建設にあたっては、稲らをラッピングしたり、大型の土のう袋に詰めるなどの拡散防止策を行うとともに、遮水シートを敷いて地下水の汚染を予防するほか、保管庫周辺の放射線量を定期的に測定し、市ホームページで公表するなどの安全対策を実施しています。